

## 重戦車が行く '10 春

初日：田浦御立岬公園～八代 25km

2日目：八代～熊本港―島原外港

～雲仙～小浜 73km

### < アンタも好きねえ >

嬉しい知らせがあった。'09 秋<たまりませんわ>の T さんが退職し、5 月末鹿児島島の友人に会いに行く途中、佐伯に立ち寄るというのだ。民宿「かわべ」で私から、「人生一回しかないんだから、さっさと見切りをつけて新しい道を探さないかん。」とクドクド諭されたのが相当応えたらしい。「あの時の前田さんの言葉が身に沁みて、これじゃダメだと思い切って辞めました。」とのことだった。

感涙!! たかがジャーニー、されどジャーニー。これからも出合いを大切にするぞ。

4 月 26 日、月曜日 13:00、田浦御立岬公園をスタートする。昨年、不貞寝ストップをした所だ。八代までの 25km はアップのつもりで走った。

日奈久温泉口のドライブイン自販でお茶を買おうとしていたら、見知らぬ人が近づいて来て、「あなた、どこから来なされた?」と問うてきた。「大分の佐伯からです。」と答えたところ、「佐伯はよかところですね。寿司はうまいし、城山からの眺めはすばらしか〜。先週行って来たとです。」…口が閉まらない。この旅も「どんだけ!」の期待感が高まった。

八代の 5km 手前のラーメン屋で大盛りラーメンを啜る。この時刻に小腹を満たしておけば、大食いはしないだろうとの算段だった。

八代セントラルホテルに 16:00 ドンピシャに着き、風呂洗濯を済ませ、颯爽とジャージ姿で八代繁華街に出かけた。ジャーニーラン中の服装は諦めている。「颯爽」と言ったのは気分のことだ。

お目当ての「なわや」には迷わずに行けた。ネットで調べていたからだ。お店に入ると、愛想のよいご主人と奥さんが迎えてくれた。先ず馬刺しを食べる。舌の上で蕩けた。次にモツの煮込みを注文した。ヤバイ!! これ程のものを食べたことはないよ。噂にたがわずだったな、ウッシッシ。

追加注文は、モツの煮込みとスナズリの串焼き 3 本で、今宵の肴はこれでオシマイ。飲み物は、ビール生大 2 杯と島美人(出水郡長島町)のロック 2 杯で思惑通りとなった。優等生じゃん。

お客が減っていき、ご主人が前に来て話を弾ませる。「お客さん、いい体格をしていますが高校時代は何をなさったんですか。」「野球です」、「どこで?」、「佐伯鶴城です」。

すると突然ご主人が、「あの時はよく打たれましたね。特に 5 番バッターには逆転打を含めてシツチャカメツチャカにやられました。」「ハッ?」と私。「私は鎮西高校の出身で野球部員ではなかったのですが、中九州大会《昔は大分と熊本で代表 1 校》の応援に大分春日浦球場に行っていたのです。うちのエース山内孝徳《南海ホークス〜ダイエーホークス》があんなに打たれたのは初めてでした。」

ゲッ!!なんちゅう展開や。私はその場にいたのだ。当時私は大学 4 年生で、帰省した時には必ずグラウンドに顔を出し、バッティングピッチャーを務め、メンバーとは馴染みになっていた。そして、その 5 番バッターというのが、妻の友達なのだ。それを伝えると、野球話しが満開になった。人生って不思議やなあ。

これでは腰を上げる訳にはいかない。「他に焼酎はありませんか。」と訊くと、徐に出しました、ジャーン! 島娘の原酒 34 度をぐい飲みで 1 杯サービスして戴いた。

「島娘」は長島町限定販売だ。取り寄せも、常連さんの紹介がなければ手に入らない焼酎だ。あまり芋臭さはないが、キリッと辛口で締りがある。その原酒ともなれば想像がつくだらう。強かにうまかった。

その後 25 度のを何杯か飲み、勘定は¥6700 だった。バカ食いしなけりゃバカ飲みするし、この重戦車はどもならん。昨秋の二の舞必死やないか。

「お客さん、雨が落ちて来ましたよ。」との声に我に返り、店にお暇したのは 21:00 だった。

ホテルに戻り、翌朝のことはケセラセラ(メリーホプキンス…古すぎや)でベッドに行き倒れた。どうやって寝たか全く記憶にない。

このままだったら、昨秋「雨にも負ける風にも負ける」よりも更にひどい状態になっていただらう。しかし、これを救ってくれたのは、予期しない塾生からのメールと島原で待っていてくれる畏友、SP ナガオカ氏の存在だった。

2:30 頃、突然ケイタイのメール音が鳴り出した。こんな夜中に誰じゃ? 安眠を妨げる奴はゆるさんぞ! と開いてみると、塾生の R 子からだった。「塾長、ジャーニーラン頑張ってますか。無理しないで最後まで行って下さい。B 型 R 子より。」だって。ハートマークまで付けている。きっと遅くまで勉強をし、寝際に打ったのだらう。こりゃあ叱れないわな。

R子は超テンネンな高校2年生の女の子で、B型というのは血液型だ。入塾時に血液型が不明だと言うので、私が「もしもの時に困るから、機会があれば調べときなさいよ。」と諭したところ、ある日「血液型を測り《?》ました。B型でした。」と嬉しそうにメールを送って来た。採血時に貼られた白い正方形の絆創膏の写真を添付してだ。他の塾生に見せて大笑いしたものだ。それ以来、自分のことをB型R子と言い出したのだ。面白過ぎる。

おかげですっかり目が醒めた。外はザーザー雨。予定より1時間半早い、このまま支度をして出発しようと決めた。

4:00 ジャスト、雨中に飛び出す。幸い風はない。二日酔いなど気にしている暇はない。11:00の熊本フェリーに乗らなくてはならないのだ。遅くても熊本港に10:30には着かなくてはならない。これに乗らないと、島原外港で待っていてくれるかも知れないナガオカ氏に遇えないのだ。よもやこの雨では来ることはないだろうが、何が何でも行かなくちゃ。しかし、この土砂降りの中、40kmを6時間半でカバーするのはしんどい。

左手に懐中電灯、右手に傘、もちろん簡易カッパは着ている。傘の持ち方はこうだ。右手をハイエルボー(肘と肩が平行)にし、傘の骨の部分の頭に密着させる。傘は微動だにしない。昨秋の苦い経験を生かし、これで雨の中を20km、2回練習した。ジャーニーランナーの悲しき性なり。

この体勢で県道14号をひた走る。膝から下はビショビショだが、上半身は汗だけだ。体温は奪われない。

ようやく夜が明け始め、宇城市松橋の国道266号との交差点に入った。雨は小降りになり、通勤通学時間帯と重なって街路に活気が溢れる。

宇土市に入ると一瞬雨が上がり、雲仙の山並みが垣間見えた。オー！ビューティフルと思うのも束の間、天が「甘くはないよ」とのごとくドッと落して来た。7:00過ぎだった。

ここでショートカットを狙ったが、逆に迷ってしまい右往左往する始末。田んぼの畦道まで通って、国道57号から県道501号に入る道を見つけたのは9:00前だった。もう余裕はない。

熊本港までの16kmはガマンガマン走だった。左手懐中電灯はもう要らないが、右手傘ハイエルボーはそのままだ。肩が凝って仕方ない。松橋以来コンビニはなく、唯一あった酒饅頭屋さんで4つ買って食べた。冷えた体に小豆の甘さが心地よく、残り7kmを一気に駆け抜け、予定通り10:30に熊本港に着いた。

そこへナガオカ氏からの電話、「島原外港で待ちよるで」だった。我が耳を疑ったが、期待は少なからずあったのだ。一昨日番匠健康マラソンで会ったばかりなのに、久しい感じがする。「アンタも好きネ」と呟いた。

熊本～島原はフェリーが2つ就航しているが、熊本フェリーの方は高速船で

濡れたソックスを乾かす間もなく、30分で島原へ着いた。埠頭から見慣れた格好の人が手を振っている。思わずニヤリ、「よくやるわ、アンタも」。

未明に大分を出て高速をぶっ飛ばし、諫早インターで下りて小浜まで来たそう。小浜で口之津(島原半島の南端)行きのバスに乗り遅れ、タクシーに追っかけてもらったが追い付けず、どう交渉したのか知らないが、そのタクシーに¥1000で原城まで運んでもらったとのこと。どう見ても30kmはあるぜ。そして、そこから25km程を雨に降られながら外港まで走って来たそう。「アンタは凄い!!俺は心の中で泣いてるよ。」10年振りに恋人に遇ったような気分だった。

12:00に島原外港を出発、2人で雲仙峠を越え33km先の小浜へ向かう。ナガオカ氏は軽装だが、私は、雨に濡れた衣類をしまい込んだバックパックが、コリコリと凝った右肩にズシリと食いこみ、痛くてたまらない。

平地の内は走ろうと思い彼を見るが、その気配はない。私のことを慮ってくれているのだろう。こちらから言い出さない限り走りはずるまい。幸いにも平地と言える所はさほどなく、私は彼の思いやりに甘えた。

水無川橋を渡った所に、サクランボがたわわに実っている街路樹があった。早速啄ばむ。口に含んではペツと種を吐き出す。甘酸っぱさが心地よく、なかなか止められない。傍から見ると、2羽のでかい鳥がつついているように映るだろう。ちょっと見つとも無いわな。

大野木場の三叉路を過ぎた辺りから、いよいよ本格的な上りが始まる。頂上まで16kmだ。昨春車で通った感じでは、島原側は箱根並み、小浜側は比べものにならないくらい急坂だった。小浜下りが不安でならない。

15:00前、俵石展望所を過ぎて茶屋を見つけた。腹が減ってきたので休憩とする。まず生ビールが精気を取り戻してくれた。ナガオカ氏は肉うどん、私はザル蕎麦を注文する。手打ちの蕎麦は抜群に旨かったが、気温が下がってきたので温かいものにすればよかったと、やや後悔した。近くから汲んでくるという水も美味で、ボトルに詰めて再出発した。

すっかり元気になったおっさん2人は、てっぺんまで5kmのへろへろカーブを、連れションはするわ、猥談はするわで楽しくカバーした。君たちは一体何をしちよるのかネ!

峠の最頂点は800mで、かなり冷え込んで来た。すかさずブレカーを着込むが、ナガオカ氏はそのままだ。

仁田峠循環道路の入り口付近から下りにかかる。右手に雲仙ゴルフクラブを見ながら、やっと走り始めた。下りは行っておかなくちゃ。

ところが、2kmも走らない内に右足裏にマメの気配を感じた。すぐワセリンを塗り込んだが、また歩くハメになった。ナガオカ氏に申し訳なかった。

雲仙旅館街を抜け、別府鉄輪地獄に比べればお庭の様な雲仙地獄の遊歩道を

踏みしめて、小浜まで 10km 地点にやって来た。16:30 だ。ここから猛烈な下りが始まった。

幾重とも知れないラケットカーブを回り、眼下に小浜湾が見えているのに近づかない。傾斜で脚が自然に速くなるのを、必死でブレーキをかけて戻す。足裏にマメをこしらえたら一巻の終わりだ。ナガオカ氏には悪いが、ここは最後まで歩きをつき合ってもらうしかない。

ようやく小浜の家並みがポツンポツンと見え始め、這這の体で小浜タウンホテルに着いたのは 18:30 だった。後に居酒屋で落ち合う約束をしてチェックインした。

有難いことにビジネスホテルながら温泉があり、ドブプリ浸かって疲れを癒す。やはり右足裏はふやけてマメのできる寸前だった。危ねえ危ねえ。

ナガオカ氏は車中泊だから、公共浴場を利用しているのだろう。洗濯を済ませ、近くの居酒屋で合流したのは 20:00 だった。

まさか小浜で彼と杯を交わそうとは夢にも思わなかったが、ほんこの人、神出鬼没な人。今度からは、どこに現れても驚かないことにしよう。

いつもならガンガン酒が進むところだが、この日は寒くて寒くて、生ビールを 1 杯の後、熱燗 2 本を頼む始末だった。食べ物もチャンポンにした。

その熱燗も 1 本しか飲めず、もう 1 本はナガオカ氏に飲んでもらった。朝の雨打たれ走と雲仙越えがよほど応えたのだろう。楽しいはずの宴会が「ええんカイ」になっちまい、1 時間も経たない内にホテルに引き上げた。

せっかく来てもらったのにこんな体たらくで、彼には済まなくてならなかった。もし彼が来ていなかったら、独りで雲仙越えをやる気力があつたかどうかだ。その前に、雨中 40km を熊本港まで走れたかも怪しい。

「友ありて我が志なる」。この日以来、私はこれを座右の銘にしている。

それにつけても思うのは、ナガオカ氏、「アンタも好きネー」だ。こんな人滅多におらんやろ!!! 世の中まだまだ捨てたもんじゃない。